

ЧУДО!!!

国際文化学科 2年 伊藤さくら

○はじめに

私は、留学に行くことが目的でこの大学に入学したわけではなかったし、ましてや入学した当初は留学に行くなんて考えていませんでした。しかし、ロシア語を選択して学んでいくうちに、自然とロシアに行ってみたい、自分の語学力を試してみたいという気持ちになり、この留学を決めました。今までなら、消極的な私の性格からは留学なんて考えられないことでしたが、1歩踏み出してみても積極的になれば良いなと勇気を出しました。今では、この機会を逃さなくて本当に良かったと思っているし、行かなかったら絶対に後悔していたと思います。

○準備

今考えれば、あまりに実感がなかったためにすんなり留学を決断することができたのではないかと思うくらい、留学に行くことが確定してからも、直前まで本当にウラジオストクに行って約4カ月間の生活が始まるのだという実感が沸かなくて、準備がなかなか進みませんでした。そのせいで、出発の前日の夜までスーツケースにもものを選別しながら詰め込んでいました。しかも私は、ロシアは冬が厳しいというイメージしか頭に入れずに服を持っていったので、実際にウラジオストクに到着してみると、夏の暑さと、冬でも屋内は暖房が完備されていてとても暖かいということに驚き、失敗したと思いました。もっと半袖の服を持っていけば良かった、こんなに厚手の服は不必要だったと少し後悔しました。準備はよく考える時間を作るために早めに始めた方が良いです。

また、注意した方がいいのは乾燥です。洗濯物はすぐ乾いて良いですが肌がカサカサになって辛かったです。

○授業

ウラジオストクに着いて1週間ほどで授業が本格的に始まりました。午前は2コマ、午後は1コマの授業がありました。すべてロシア語で聞かれて答えなければならないということに対して最初は不安しかありませんでした。一番初めの授業は、やはり本場のロシア語は速くて聞きとるのが難しいという印象でした。この先ついていけるだろうか、分からないのは自分だけなのではないかなど不安になることが多々ありましたが、どの先生もとても優しく、ゆっくり説明してくれました。最初だけでなく毎回の授業で、説明しながら何度も分かった？大丈夫？と確認してくれたので安心でした。時間が経つにつれて慣れてくると、次第に先生のおっしゃっていることがほとんど分かるようになってきました。

ちなみに、私たち留学生は、基本的に先生に名付けられたロシア名で呼ばれていました。私のロシア名はАня（アーニャ）でした。私たちも、同じグループの子をロシア名で呼んでいました。

留学生はたくさんいて、十数のグループに分けられていました。授業が始まって 2 日目から私たち 6 人は 3 人ずつそれぞれ別のグループに配属され、午前は、それらのグループで他の国の留学生と共に会話、文法、リーディング、リスニングの授業を受けました。同じグループには、同年代の中国人の女の子と男の子、韓国人の女の子、そして 32 歳の中国人男性もいました。みんな優しく授業中に助けてくれたり教えてくれたり、日本語に興味があるらしく色々な日本語を教えてあげたりもしました。どの授業でも、色々なシチュエーションで日本のことを聞かれることが多かったです。自国である日本についての知識と、それをロシア語で説明できる力が私には乏しく、文法の授業で他国の子とペアになってお互いの国についてロシア語で紹介する時に言葉が出てこず困ってしまうことが多くありました。相手のことを知るためにはまず自分のことを知っていなければならないのだと痛感しました。3 人ずつに分けられる前も後も私たち以外の国から来た生徒の入れ替わりが結構あり、私は中国や韓国、ドイツやアメリカ、インドネシアや台湾、ウズベキスタンなどの学生とも授業を受けることができました。学習歴が違うのがありますが、みんな私とは比べ物にならないくらいロシア語のレベルが高く、積極的に向上心がありました。自分から発言したり質問したりして明るく授業に臨む姿を見て尊敬しました。自分ももっと積極的にしなければならないと思われました。午後は、私たち日本人 6 人で、月曜日から順番に極東の地理や文化について、音楽、リーディング、歴史、美術の授業を受けました。極東についてと歴史の授業は難しく、先生が話しながらどんどん変えていくパワーポイントのスライドに書いてある内容を一生懸命ノートに写すことに精いっぱいでした。この 2 つの授業の後はいつも頭と手が疲れていたのを覚えています。でも、この 2 つだけは台湾の女の子 2 人も一緒に、その内の 1 人は日本語がとても上手だったのでたくさん助けてもらいました。音楽と美術の授業はどちらも Светлана (スヴェトラナ) 先生という方が担当してくださったのですが、その先生がとても明るくかわいらしい、お母さんのように親しみやすい方だったのもあり毎回楽しかったです。日本人でも知っている人が多い Катюша (カチューシャ) などのロシアの伝統的な民謡や、ロシアで親しまれているアニメの歌をたくさん音楽の授業で教わり、歌詞を覚えてみんなで歌うことができうれしかったです。逆に、日本の「ふるさと」をリクエストされて歌うと、とても喜んでくださいました。美術の授業では、ロシアに関する色々なテーマで絵を描いたり時には人形を作ったりしました。自分で体験しながら文化を学び、形に残る思い出を作ることができたので滅多にない良い経験になったと思います。

また、パソコンについては、授業中に使うことはありませんでしたが、パワーポイントでプレゼンを作って発表するという宿題が何度か出されました。1 人 1 台が理想的です。

○初めの 1 週間

授業が始まるまでの 1 週間は、なにも分からない私たちにたくさんの方が様々なことを教えてくれました。まず寮に入り、同じフロアの韓国人が迎えてくれました。お互いに自

己紹介をし、寮の使い方などを丁寧に教えてくれました。私は人見知りなので留学前から他の国の学生と寮生活を共にすることに不安を抱いていましたが、本当に優しくて親切な人ばかりで感動しました。それに、日本の文化であるアニメやアイドルなど共通の話題があることが分かりすぐに打ち解けられました。

また、私たちはたくさんのロシア人学生に本当にお世話になりました。彼らはみんな日本語を勉強していて、日本語と時に英語も混ぜながら優しく色々なことを話してくれたので、とても心強かったです。大学の教室や食堂などの施設から、大学の近くのスーパーやお土産屋、ウラジオストクの街の中心や観光地まで連日案内してくれました。有名な *б л и н ы* (ブリヌイ) のお店と一緒に行って食べたり、綺麗な景色を見ながら散歩したり、劇場にも連れて行ってくれました。私たちの留學生活は、この大きな助けが無かったら成り立っていなかったと思います。感謝してもきれないくらいです。

○寮生活

寮で私は *NUIS* の子と同じ部屋だったのですが、それ以外の 4 人は韓国人やロシア人と同室で生活をしていました。それでも、2 人部屋が 2 つくっついていてキッチンやトイレ・シャワーを 4 人で使うという方式だったので私も韓国人とほぼ一緒に生活していたような感じでした。

食事については、朝はスーパーでパンやシリアルを買って食べ、昼は大学の中の食堂を利用したり外にある小さいお店で買って食べたりしていました。夜は、*К у х н я* (クーフニャ) という共同調理場を利用していたのですが途中から使えなくなったので自室のキッチンで作っていました。食材は近くのスーパーで買うことができました。たまにカップラーメンを買って簡単にお昼ご飯や夕飯を済ませることもありました。日本の食品も売っていますがやはり値段が高いです。休日や授業が早く終わった日などは街に出かけて外食をしていました。ロシア料理、イタリアン、韓国料理、日本食レストランにも行きました。

洗濯は、1 回 50 ルーブルでおばちゃんがやってくれます。湿っていたりなかなか返ってこなくて長い時間待ったりもしましたが、そのおばちゃんは日本人だと覚えてくれて少し仲良くなれました。

Wi-Fi は、とても時間がかかって大変でしたがロシア人たちの力をお借りして寮で使えるようにしていただきました。外では無料の *Wi-Fi* スポットで使っていました。

○思い出

私たちは留學中、色々な人に出会ったおかげで貴重な体験をたくさんしました。まず大学の中でたくさんのイベントが開催されました。ウラジオストクの代表的なロックバンドのライブに参加したのがきっかけで、このバンドのファンでウラジオストク在住の日本人の女性と出会い、ボーカルの方に頼んで一緒に写真とサインをいただいたり、そのあともその方にウラジオストク駅を案内していただいたりお宅に招待までしていただきました。

前述したように日本語を勉強しているロシア人たちが街の本屋、おしゃれなカフェ、おいしいレストラン、海岸通りなど書ききれないくらいたくさん場所を教えてくださいました。そのおかげで私たちは道を覚えられ、自分たちだけで出かけられるようになりました。ロシア人の付き添いなしでバスに乗って植物園に行った時は達成感も少しあり紅葉が綺麗だったのでとても印象に残っています。9月27日はトラの日ということで、中央広場でお祭りが開催されました。広場には人が溢れかえっていて、中にはトラのメイクをした子供たちもいました。私たちもせっかくの機会なのでトラメイクをしてもらって祭りを楽しみました。冬にはスケートリンクに連れて行ってもらい初めてアイススケートを経験しました。ロシア人はやはり全員上手で、滑ってみせて教えてくださいました。また、Светлана先生には授業だけでなく多くの場所に連れて行っていただきました。このことはなんともいっても忘れられません。私たちがこの留学中最もお世話になった方と言っても過言ではありません。オペラ、美術館、動物園、サーカス、パン工場、伝統的な踊りのショー、スケートショーや水族館など・・・先生とのお出かけはいつも楽しかったです。同じ寮の韓国人たちも一緒に行くことが多かったです。初めてオペラやバレエを生で鑑賞して迫力と美しさに感動を覚え、私たちは自分たちでバレエのチケットを買って何回か観に行きました。

あと、一緒に寮生活をしていた韓国の子たちや、授業で同じグループの中国人の女の子、台湾人の女の子とも食事したり遊びに行ったりしました。もっと早く仲良くなってもっとたくさん出かけたり話したりしたかったと後悔するくらい皆との最後のお別れは辛かったです。でも、連絡先を交換して今でも連絡をとり合っている子もいます。

○最後に

私にとってウラジオストクは、初めての海外で異文化に触れ様々な人に出会い、自分を成長させてくれた思い出の詰まった場所になりました。すべての経験と感想はとてもここには書ききれませんが、学んだこと感じたことをいつまでも忘れずにこれから学習に意欲的に取り組んでいきたいと思います。また、今回の留学がきっかけで生まれた人々との出会いを大切にしていきたいです。短い時間ではありましたが、一生のうちで最も濃い4カ月弱になったと思います。このような貴重な経験ができたのも、支えてくださった皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

С п а с и б о б о л ь ш о е ! !



ВГУЭСはとても広くて緑がたくさんあっていいところでした。



Светлана先生と劇場にて



お世話になったナージャと



トラの日！



一緒に授業を受けたグループ！



仲良くなったベロニカと



アイススケート